

琴奨菊関の故郷 柳川も発掘調査終了

発掘新聞



柳川市上空（手前が上町遺跡）

柳川藩の城下町遺跡 庶民生活の痕跡を発見！



五輪塔や石灯籠などで、柱の礎石として使用した様子

琴奨菊関の故郷柳川では、平成24年7月に九州北部地域を襲った豪雨災害を受けました。今後の防災のために、沖端川に架かる出の橋の付替え工事に伴う発掘調査を昨年4月から今年2月上旬までの間、行ってきました。

調査範囲は出の橋を挟んで北側を保加町遺跡、南側が上町遺跡の一部になります。今回の調査では江戸時代（17〜18世紀頃）の建物跡やそれらに係る土坑・溝などを検出しました。遺跡からは使用されていた土器・陶器・磁器・瓦・土製品（土人形・土鈴）・石製品（砥石・石塔・石臼）・金属製品・『寛永通宝』などの銅

銭・煙管・手鏡・木製品（柱材など）が、ハンケースで約20箱以上出土しました。

柳川市中心部の地層は、他の地域とは異なり、現在の地面の高さから約10m下まで粘土が堆積しています。

遺跡では現在の地面より、約2m下までの間に江戸時代の人々が生活していた4期分の生活面を捉えることができました。

現在の地面の高さから約1



石灯籠の一部



五輪塔の一部



昨年7月、柳河小学校6年生による体験発掘

m下の生活面では、地盤の粘土に建物の柱が沈まないように、柱の基礎部分に礎石を敷いた面もありました。

また出土した陶器・磁器類は有田焼・唐津焼・武雄焼などの肥前地域を始め、高取焼・上野焼など筑前の焼き物も出土しています。その他にも、中国系磁器（景德鎮・漳州窯など）や朝鮮白磁など近世陶磁器研究者達が唸る横綱級の逸品が多数出土しています。

今後、整理作業が終了後、展示する予定です。（坂本記者）